

高等学校 公民科

倫理

学習プリント

高等学校学習指導要領（平成30年告示）準拠

A 現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方

B 現代の諸課題と倫理

目次

■ A 現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方

- 第1章 青年期と自己形成の課題
- 第2章 人間としての自覚 — 源流思想
- 第3章 国際社会に生きる日本人としての自覚
- 第4章 人間の尊厳と自由 — 西洋近代の思想
- 第5章 現代の人間と社会をとらえる思想

■ B 現代の諸課題と倫理

- 第6章 現代の諸課題と倫理

■ 巻末資料

- 資料1 先哲と主著一覧
- 資料2 原典で読む 先哲のことば
- 資料3 現代の諸課題 キーワード早見表

◆この冊子の使い方

- ・【 】の中が答えです。赤い下じきを当てると消えるので、くり返し確認できます。
- ・「書きこみ用」は同じ内容が空らんになっています。答えを書きこんで練習しましょう。
- ・「発展」のマークがついた文は、教科書の本文をこえるやや高度な内容です。まずはマークのない部分を確実にし、余裕が出てから取り組めば十分です。
- ・先哲の言葉は「 」、著作名は『 』で示しています。共通テストでは著作と人物の組み合わせが直接問われます。巻末資料1・2もあわせて使いましょう。
- ・第6章の「探究の問い」には決まった答えがありません。指導要領がいう「他者と対話しながら多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想する」ための材料として使ってください。

この冊子の構成について

◆学習指導要領との対応

この冊子は、高等学校学習指導要領（平成30年告示）公民科「倫理」の内容の配列にしたがって編集してあります。指導要領は内容を大きく2つに分け、「AのあとにB」の順で扱うものとしています。

◆A 現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方

（1）人間としての在り方生き方の自覚

- ア（ア）人間の心の在り方 → 第1章
（個性、感情、認知、発達／青年期の課題と心理学の考え方）
- ア（イ）様々な人生観 → 第2章・第4章
（幸福、愛、徳／人生における宗教や芸術のもつ意義）
（古代ギリシアから近代までの思想、キリスト教、イスラーム、仏教、儒教）
- ア（ウ）様々な倫理観 → 第4章・第5章
（善、正義、義務／民主社会における人間の在り方、社会参加と奉仕）
- ア（エ）様々な世界観 → 第2章・第4章・第5章
（真理、存在／自然と人間との関わり、世界を捉える知の在り方）
- ア（オ）原典の日本語訳などから情報を読み取る技能 → 巻末資料2

（2）国際社会に生きる日本人としての自覚 → 第3章

（日本人に見られる人間観、自然観、宗教観の特質）
（伝統的な芸術作品、茶道や華道などの芸道）

◆B 現代の諸課題と倫理

- （1）自然や科学技術に関わる諸課題と倫理 → 第6章 第1節～第3節
（生命／自然／科学技術。人工知能（AI）など先端科学技術も含む）
- （2）社会と文化に関わる諸課題と倫理 → 第6章 第4節～第6節
（福祉／文化と宗教／平和）

指導要領はBを「科目のまとめ」と位置づけ、適切かつ十分な授業時数を配当するとしています。

第6章の各節の末尾には、答えが一つに定まらない問いを「探究の問い」として置いてあります。

第1章 青年期と自己形成の課題

■ 1 青年期とはどのような時期か

- ①人間の一生は、乳児期・幼児期・児童期・青年期・成人期・老年期などの段階に分けられる。
このうち子どもから大人への移行期にあたるのが【**青年期**】である。
 - ②青年期は身体の急激な変化から始まる。生殖機能が成熟し、男女の身体的特徴が現れることを【**第二次性徴**】という。この時期を【**思春期**】ともいう。
 - ③ルソーは『【**エミール**】』の中で、青年期を、生物として生まれたあとにもう一度人間として生まれ直す時期ととらえ、これを「【**第二の誕生**】」と呼んだ。
「我々はいわば二度生まれる。一度目は存在するために、二度目は生きるために」
 - ④青年は、親の保護から離れて自分で判断しようとするようになる。この心理的な自立の過程を【**心理的離乳**】という（【**ホリングワース**】）。
 - ⑤親や大人の価値観に反発し、批判的になる時期を【**第二反抗期**】という。
 - ⑥レヴィンは、青年を、子どもの世界にも大人の世界にも完全には属さない存在ととらえ、
【**境界人**】（【**マージナル・マン**】、周辺人）と呼んだ。
 - ⑦かつての社会では、青年期は短いか、ほとんど存在しなかった。大人になるための儀式である【**通過儀礼**】（【**イニシエーション**】）を経れば、その日から大人として扱われたからである。
※日本の元服、成人式、七五三などが通過儀礼にあたる。
 - ⑧現代社会では就学期間が延び、経済的自立が遅れたため、青年期は歴史的に長くなっている。
- 発展** 青年期の延長は、社会が要求する知識・技能が高度化したことの結果でもある。

■ 2 自我のめざめとアイデンティティ

- ①自分とは何者かを問い、他者とは違う自分を意識することを【**自我のめざめ**】という。
 - ②【**エリクソン**】は、人生を八つの発達段階に分け、それぞれに達成すべき課題があるとした。
これを【**発達課題**】という。
 - ③エリクソンは、青年期の発達課題を【**アイデンティティ**】（【**自我同一性**】）の確立とした。
・アイデンティティとは、「自分は自分である」という一貫した感覚と、
「自分は社会の中で認められている」という感覚が結びついた状態をいう。
 - ④これが得られない状態を【**アイデンティティの拡散**】（同一性拡散）という。
 - ⑤青年期は、社会的な義務や責任を一時的に猶予され、さまざまな役割を試すことが許される。
エリクソンはこの期間を【**モラトリアム**】（心理・社会的モラトリアム）と呼んだ。
※もとは経済用語で「支払猶予」の意味。
 - ⑥【**ハヴィガースト**】も発達課題を提唱し、青年期の課題として、同年代との成熟した関係、両親からの情緒的独立、職業の選択と準備、価値観・倫理体系の形成などをあげた。
- 発展** 近年は、青年期と成人期の境界がさらにあいまいになったとして、
「【**成人形成期**】（エマージング・アダルトフッド）」という段階を立てる考え方もある。

■ 3 欲求と適応行動

- ①人間の行動の源にあるものを【**欲求**】という。
 - ・【**一次的欲求**】（生理的欲求）…食欲・睡眠欲など、生命を保つための欲求。
 - ・【**二次的欲求**】（社会的欲求）…承認・所属・自己実現など、社会生活の中で生まれる欲求。
- ②【**マズロー**】は、人間の欲求を階層としてとらえ、低い段階の欲求が満たされるとより高い段階の欲求が現れると考えた。その最高段階が【**自己実現の欲求**】である。